

京都文化力プロジェクト機関誌に寄せて

長尾 真 公益財団法人 京都市音楽芸術文化振興財団 理事長
元京都大学 総長
京都文化力プロジェクト実行委員会 顧問



東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を契機に日本の文化・芸術を京都から世界に発信することを目的として、2016年に「京都文化力プロジェクト」がスタートし、今年、いよいよ開催の年を迎えました。オリンピック・パラリンピックは、スポーツの祭典であると同時に文化の祭典でもあります。この機会に、1200年を超える歴史を持ち、日本文化を代表する都市である京都から「日本の文化力」を世界に発信したいと考えています。

私が理事長を務める(公財)京都市音楽芸術文化振興財団が関わる音楽や舞台芸術はもちろん、

能・狂言や歌舞伎、京舞、お茶にいけばな、書道など、京都に根づく文化は多岐にわたります。加えて京都の素晴らしいところは、そうした文化が地域の人々の日常生活に溶け込んでいることです。舞台やコンサート、展覧会などに積極的に足を運び、さまざまな芸術に親しむだけでなく、季節が変わるごとに床の間の掛け軸や建具を替えたり、祇園祭をはじめ各地の祭りや神社仏閣の行事を心待ちにしたりと、人々は日々文化を楽しみながら暮らしています。それこそが京都の「文化力」だと私は考えています。

一方京都では長きにわたって伝統的な工芸技術も磨かれてきました。そうした蓄積の中から真の芸術や新しい文化が創造されていくところにも、京都の強みがあります。加えて京都は40を超える大学が拠点を置く日本屈指の学術都市でもあります。豊かな自然、悠久の歴史を持つこの地だからこそ、物事を根本的に考え、真理を探究したり、革新的なものを生み出すことも可能になるのではないのでしょうか。こうした日本のすばらしさを明確にし、世界に示していくことが重要であり、京都はその拠点としての役割を果たせると私は考えています。

2020年を機に、ここ京都でいっそう文化力を高め、新たな文化を創造し、それを世界に発信していきたい。国・行政を挙げてそれを力強くサポートしていただきたいと期待しています。



長尾 真(ながお・まこと) 1936年、三重県生まれ。1959年、京都大学工学部卒業、1961年、京都大学大学院工学研究科修士課程修了。1966年、工学博士。京都大学工学部で助手、助教授を経て1973年、教授に就任。長年コンピュータの画像処理、自然言語を研究。1986年、京都大学大型計算機センター長、1997年、京都大学総長、2007年、国立国会図書館長を歴任。2013年より公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団理事長。2004年、フランス・レジオンドヌール勲章、2005年、日本国際賞、2014年、京都市文化賞特別功労賞、2018年、文化勲章を受ける。2019年、京都市名誉市民。

くらしの文化を楽しむ

京都から文化・芸術を世界に発信し、日本、そして世界で新しい創造の潮流を起こす。そう目標を掲げて始まった京都文化力プロジェクト。2019年度のテーマは「くらしの文化」。平安京に都が築かれてから1200年余り、歴史の中で花開いた数々の文化・芸術は今も人々のくらしの中にしっかりと根づいています。そうした京のくらしに息づく文化力を発信します。